



日常生活でペットからうつる人と動物の共通感染症

Zoonosis: Diseases that Transfer Between Pets and Humans in Daily Life

国立感染症研究所感染症情報センター センター長・岡部 信彦

Nobuhiko OKABE, MD, PhD, Director,

Infectious Diseases Surveillance Center, National Institute of Infectious Diseases

どうもこんにちは。雪のぱらつく中お集まりいただきありがとうございます。私も東京から新幹線で来たんですけど、途中で、雪で新幹線が大分おくれたというような状況ですけども。

きょうは、この会の中で「日常生活でペットからうつる人と動物の共通感染症」、そんなタイトルで、ここでやらせていただいたのは一番下に書いてありますけど、小さい字で。人と動物の共通感染症研究会というのがありまして、そこでこの企画のお手伝いをさせていただきました。人と動物の病気というと、昔から人獣共通感染症あるいは人畜共通感染症、そういう言葉が広く使われてるんですけども、何だか、人と獣であるとか、犬畜生の畜であったりして、余り感じのいい言葉ではないなという思いがしてるんですけど。英語ですと、この下の真ん中のところに書いてある Zoo noses という言葉を使っています。そのほうが意味が広いんですけども、なかなか日本語で Zoo noses というのは通じにくいだろうということで、私たちは人と動物の共通感染症研究会、その研究会を立ち上げるときにそんな名前をつけました。

私はもともと小児科の医者で、人の医者側なんですけれども、獣医さんとか、動物の領域の先生方、その人たちが共通のテーマを持って話し合う。それはイコール、人の病気が動物のほうに行く、これは実際は少ないんですけども、動物の病気が人のほうに来る、そのキーワードで話し合いをしよう、研究の共通点を見つけようというふうにスタートしました。

実は、なかなかそういう集まりとか話し合いをすることはありませんで、獣医さんは獣医さんのグループでやって、お医者さんはお医者さんのグループでやってるところで、細々とそこに接点があったわけですけども、それを共通に話すというところで、この人と動物の共通感染症研究会というのがスタートしたというのがあります。

そこで、今回はテーマを選ぶのをさせていただいた

んですけども、日常生活でペットからうつる、こういうところにおいていただく方は大体おわかりになると思うんですけども、ペットも幾つかの病気を当然ながら持っているわけですけども、これを週刊誌的に言うと、「ペットからうつりやすい危険な感染症、恐るべき感染症」、そういったような名前が出てきてしまうことがあるんですけども、決してそうではなくて、この会の趣旨も、このパンフレットに、動物由来感染症ハンドブック 2011、親しき仲にもルール有りということが書いてありますけれども、お互いをよく知ってというより、向こうはこっちのことわかりませんから、動物はこっちのことわかってくれるわけではないので、やっぱり、我々のほうがわかって、彼らを大事にして、そして、彼らからこちらのほうに病気としてくるものは、やっぱり防いだほうがいいだろうというところが大きな趣旨になります。

26 ページにあるんですけども、それぞれの抄録の一番最初に、私のキーワードは、動物は人のことを考えることはできませんが、人は動物のことを考えることはできますと書いてありますが、これが私のキーワードです。

それで、きょう、お話しいただくのは4人の先生方をお願いをしています。私は司会をやります国立感染症研究所感染症情報センターというところにいる岡部といいますけれども、一番最初は、お話もいろんなペットがありますから、中には蛇もカエルもトカゲも全部ペットに入るんですけども、最も身近なものとして猫、犬、鳥類、そこら辺をキーワードにして、なおかつ、やはり健康をつかさどる国の行政機関としては厚生労働省、その中に結核感染症科という人の感染症を扱うところがあるんですけど、その中には獣医の技官、専門グループの人たちが入ってて、人から動物に来る病気であるとか、動物の病気、それに対する注意を行政的に行ってるというグループがあります。そこから、それぞれ第一人者の先生方に来ていただいています。

一番最初が「猫から移る病気：猫ひっかき病」、これは日大の生物資源科教授の丸山先生にお願いをして、2番目が「犬由来細菌感染症」、数あるんですけども、ブルセラ症とカプノサイトファーガ症、ちょっと名前が耳なれないかもしれませけれども、注意をしなくちゃいけない感染症、これは国立感染症研究所の獣医科学第1室長の今岡先生にお願いをしてあります。それから、鳥のほうが岐阜大学応用生物科学の福士教授に「オウム病を知る」、まさに鳥と安心して暮らすためにというサブタイトルがついてます。最後に「我が国における動物由来感染症対策」、どういうふうにして行政的な注意をしてるかというようなことに御紹介をいただいて、割に時間が余裕をとっているようですので、ふだん共通の問題点、あるいは、このタイトルに限らず、ペットから来る動物、どういうことがあるのか、あるいは、どういう問題があるのか、御質問いただければ、これはわかる範囲で、専門分野を超えたりするとわかりませんが、できるだけお答えするようにして、このセッションというふうに構成していきたいと思えます。どうぞよろしくお願ひいたします。

それでは、最初の演者、丸山宗一先生、よろしくお願ひいたします。タイトルは、今出てきます。キーワードは猫でして、「猫からうつる病気：猫ひっかき病」というのがあります。

では、丸山先生、どうぞよろしくお願ひします。